

第16回つくばリサイタルシリーズ報告書

小林壱成ヴァイオリン 心震わす名曲との出会い

つくばリサイタルシリーズ実行委員会

土肥幸奈

1. つくばリサイタルシリーズ実行委員会について

つくばリサイタルシリーズ実行委員会は、つくば市においてプロの演奏家を招聘し、クラシックコンサートをプロデュースする筑波大学の学生団体である。つくばの学生および市民が経済的に大きな負担を伴わず、本物のクラシック音楽に触れる機会を提供することを目的としており、2021年で10周年を迎えた。通常プロの演奏を聴くためには、高額なチケットを購入する必要があるが、会場が東京などの大都市に限られていたりするため、クラシックに対して親しみにくい印象を抱く人も多い。その意識を変えるため、つくば市民にとって身近な場所で、手頃な価格でクラシックを楽しめることを目指した本シリーズの基本方針は、例年のアンケート結果を通じて来場された皆様からも高い評価を受けている。企業協賛やクラウド・ファンディングといった手段により資金を確保し、可能な限り低価格かつ高品質な演奏会を実現できている。

2. 事業の概要

事業名：第16回つくばリサイタルシリーズ 『小林壱成ヴァイオリン 心震わす名曲との出会い』

実施日：2025年12月12日

場 所：つくばカピオ ホール

価 格：一般 1,500円 学生無料(要申込)

出 演：

小林 壱成 (ヴァイオリン)

高倉 圭吾 (ピアノ)

曲 目：

シマノフスキ/ノクターンとタランテラ

ブラームス/ヴァイオリン・ソナタ第3番

江藤光紀/新作

R・シュトラウス/ヴァイオリン・ソナタ

3. 活動の様子



会場準備



演奏中



トーク



終演

4. 活動の達成度

4-1 演奏会の趣旨について

第16回つくばリサイタルシリーズでは、東京交響楽団の第一コンサートマスターを務める小林壱成氏、そして国内外で様々な活躍するピアニストの高倉圭吾氏をお迎えし、本格的で王道のプログラムを披露していただいた。「心震わす名曲との出会い」というサブタイトルの通り、クラシックの愛好家だけでなく、まだ生のクラシックに触れたことのないつくば市民や学生の方々にも、クラシックの魅力を伝える機会とすることができたと感じている。

4-2 広報について

今回の演奏会は10月から広報を開始し、例年通り、筑波大学の学内掲示板への投稿や学生間のLINEグループによる告知、他の演奏会でのチラシの挟み込み、メールマガジンの発信等を行った。プレスリリースの送付先や利用する催事情報サイトの数は拡大を図るなど工夫をしたが、中盤ではチケットの売れ行きが伸び悩んだ。そこで本番前最後の週には、大学の昼休みの時間を利用しキャンパス内で連日ビラ配りを行った。その結果、1日で10枚以上売れるなど劇的に売れ行きが伸び、最終的には販売数の8割以上を販売することができた。

ブログでは、出演者やプログラムの発表、チケット案内等のお知らせ、曲目紹介や活動報告など、様々なコンテンツを継続的に投稿した。今回は、出演者のお二人と学生複数名で実施したオンラインインタビューだけでなく、主演の小林壱成氏の所属する東京交響楽団のゲネプロの見学のレポート、その際に撮影した小林氏のメッセージ動画など、出演者を巻き込んだコンテンツも豊富に発信できた。

SNSでは、情報発信やブログ更新に関連する投稿だけでなく、演奏会までのカウントダウンなど新しい投稿も試みた。また、フォロワーを増やし、最終週には毎日投稿をするなど、利用者に何度もアカウントを見てもらって印象付けることを意識しつつ積極的な運用を行った。

今回の広報活動を通し、今後に向けた改善点も見つかった。まず、ビラ配りを情報解禁直後にも実施すべきであった。最終週のビラ配りは非常に効果的であったが、直前期の広報ではすでに予定が入っているために来場を見送った方も多かったのではないかとと思われる。そこで、次回は直前期に加え情報解禁直後にもビラ配りで集中的に広報することで、集客機会の損失を防ぎ、さらに売れ行きの初速をあげることができるのではないかと考えている。また、さらなるSNSの活用の工夫も必要である。様々な媒体から何度も利用者に見てもらうために、あフォロワー数の多い地域発信アカウントへ広報の協力を依頼したり、公式LINEを開設して来場者や筑波大学の学生を中心に登録を呼びかけ、若い世代を対象としたメールマガジンの代用として活用することができるのではないかと考えている。

4-3 運営について

今回は現メンバーでは初めてとなる平日夜の開催であり、また当日は授業中やテストで途中参加となるメンバーも多かったため、少し不慣れな状態ではあったが、情報共有を入念に行い、概ね滞りなく進行することができた。開演後数分で地震が発生するハプニングがあり一度演奏を止めたが、ホールの担当者の指示に従って安全確認をした上で無事に演奏会を再開できた。

しかし、オンラインで販売していた席が実際には存在せず、余っていた他の席に案内し対応したというミスもあった。これはホールの販売サイトへの登録が誤っていることが原因であったため、今後同じホールを利用する際には注意を要する。

4-4 会計について

今回は一般チケットを一枚 1,500 円で販売した。teket での販売数は学生席 157 枚、一般席 69 枚となり、teket での売り上げは 103500 円となった。ホールチケットおよび当日券も販売した。

また今回は、企業協賛、茗溪会、筑波大学「世界を変えよう基金」による助成を受けた。助成金として、関彰商事株式会社から 30,000 円、免キラつくばベースから 10,000 円、茗溪会から 56,000 円、筑波大学「世界を変えよう基金」から 20,000 円をご支援いただいた。クラウド・ファンディングも実施し、109,000 円のご支援を頂いた。

4-5 アンケート分析

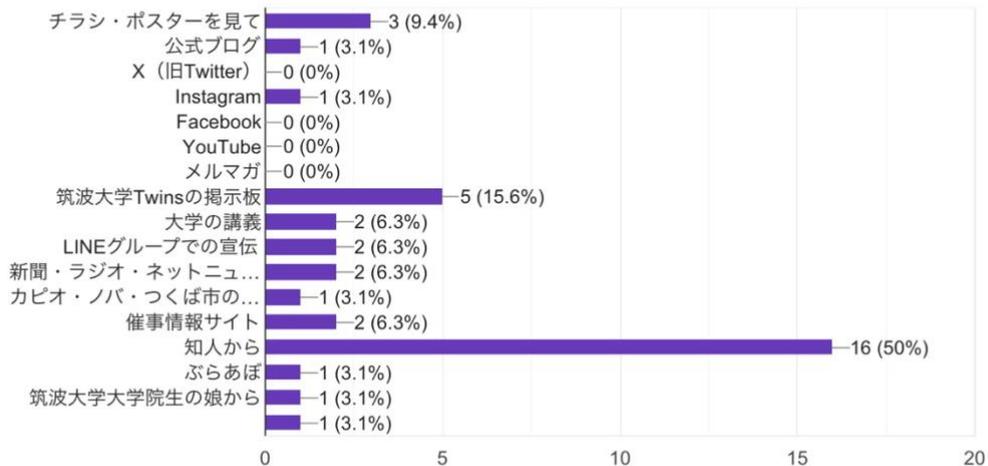
ご来場いただいた方々に対し演奏会に関するアンケートを実施し、来場数の約 15% である 32 名の方から回答をいただいた。

Q1. 今回の演奏会をどのように知りましたか。(複数回答可) ※「その他」の方は、具体的な媒体を回答いただけますと幸いです。

グラフ

をコピー

32 件の回答

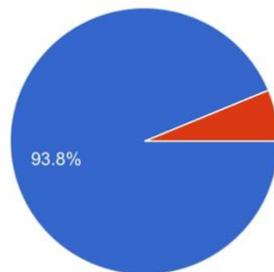


演奏会を知ったきっかけは知人からの紹介が飛び抜けて最も多く、まだまだ当団体の活動が広く知っていただけてはいないと痛感した。次いで筑波大学 Twins の掲示板、チラシ・ポスターという回答が多かった。

Q2.演奏会の全体的な満足度をお教えてください。

32件の回答

 グラフをコピー

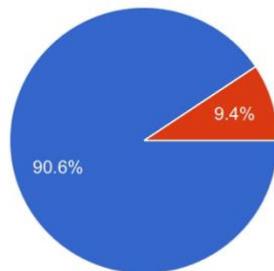


- 満足
- やや満足
- どちらともいえない
- やや不満
- 不満

Q3.演奏会の進行はいかがでしたか。

32件の回答

 グラフをコピー



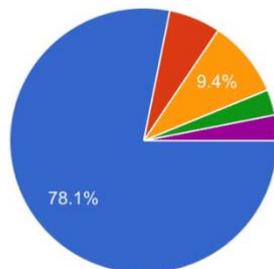
- 良い
- やや良い
- どちらともいえない
- やや悪い
- 悪い

演奏会の満足度および進行については好評をいただいた。

Q4.これまでつくばリサイタルシリーズにご来場されたことはありますか。

32件の回答

 グラフをコピー

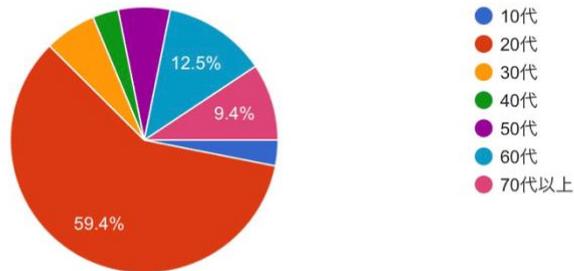


- 初めて
- 2回目
- 3回目
- 4回目
- 5回目以上

Q5. ご年齢

32 件の回答

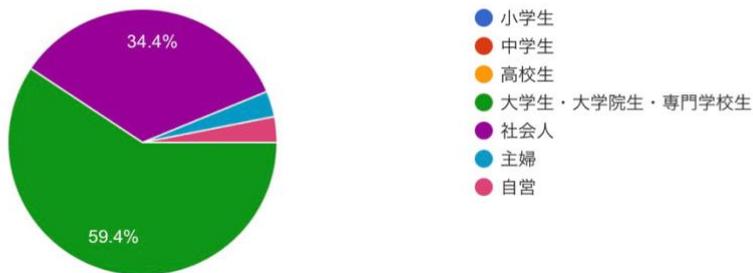
 グラフをコピー



Q6. ご職業

32 件の回答

 グラフをコピー



これまでの来場回数については、初めて来場される方が 8 割と、例年よりもかなり多い結果となった。また、年齢は 20 代が、職業は学生がともに 6 割であった。以上を踏まえると、入れ替わりの激しい学生の来場が多かったため、リピーターの方の割合が低くなっていると考えられる。平日夜開催であったことや、大学構内でのビラ配りや SNS など学生・若者向けの広報を拡充したことが、学生の来場の多さに影響した可能性がある。

5. 総評

第 16 回つくばリサイタルシリーズは、国内外で大活躍中の若手演奏家である小林壱成氏、高倉圭吾氏のお二人をお招きし、「心震わす名曲との出会い」をテーマに演奏会を行った。終演後には出演者と来場者が交流し感動を共有する様子も見られ、クラシックに触れる機会の少ないつくばの方々に素敵な出会いを提供することができた。

また、前回の第 15 回つくばリサイタルシリーズで課題として挙げた SNS 運用の改善もある程度達成され、さらなる改善の余地も見つかった。

しかし、仕事量の特定個人への偏りや、それにより引き継ぎが充分になされてこなかった点は、今後の課題である。活動ノウハウがある程度確立し、メンバーの数も増えてきた近年、個人仕事に頼らない組織的な運営体制を改めて構築していく必要があると考える。